

第26回愛教研小・中学校道德教育研究大会

【第1分科会】

授業づくりの基本

令和5年8月8日(火)

1

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする。

小学校学習指導要領 平成29年3月

2

特別の教科 道德の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小学校学習指導要領 平成29年7月

3

道德的諸価値について理解する

道德的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの

道德的価値について理解するとは

価値理解

道德的価値は人間としてよりよく生きる上で大切なことである

人間理解

道德的価値は大切であってもなかなか実現することができない

他者理解

道德的価値の感じ方、考え方は一つではなく多様である

4

自己を見つめる

道德的価値を自分のこととして考えたり感じたりすること

- ・ これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める→自己理解を深める
- ・ 自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができる

5

物事を多面的・多角的に考える

物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする

- ・ 道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる→自己や社会の未来に夢や希望がもてる

6

自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにする

- ・ 身近な集団の中で自分の特徴などを
知り、伸ばしたい自己を深く見つめる
- ・ これからの生き方の課題を考え、それを
自己の生き方として実現していこうとする
思いや願いを深める

7

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性を構成する諸様相

道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力。

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

8

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性を構成する諸様相

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。

人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情。

9

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性を構成する諸様相

道徳の実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤として道徳的価値を実現しようとする意志の働き。

道徳的態度

道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

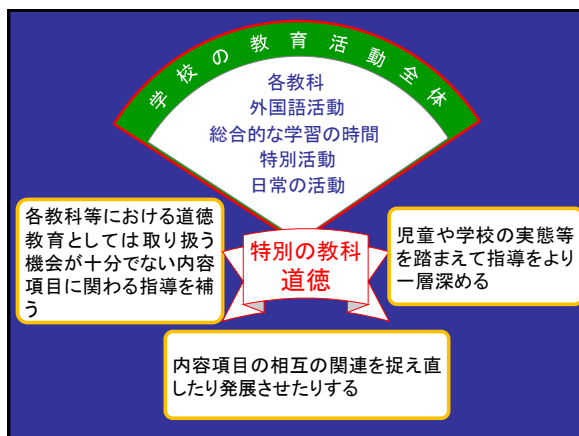
10

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性を構成する諸様相 序列や段階はない

一人一人の児童が道徳的な価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質

11



12

道徳教育(道徳科)の内容

教師と児童が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題

内容項目は指導に当たり取り扱う内容であって、目標とする姿を表すものではない。したがって、児童に対して一方的に内容項目を教え込むような指導は適切ではない。

13

多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、わらいとする道徳的価値についての考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。

14

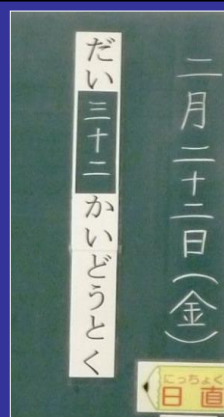
協力的な指導などについての工夫

全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道徳科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導、他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導を行うことなど、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫することなどを、学校としての方針の下に道徳教育推進教師が中心となって進めることが大切である。

15

確実な実施に向けて マネジメント

- 掲示物
- ローテーション授業
- 学年会の活用



16

道徳科の授業で感じること

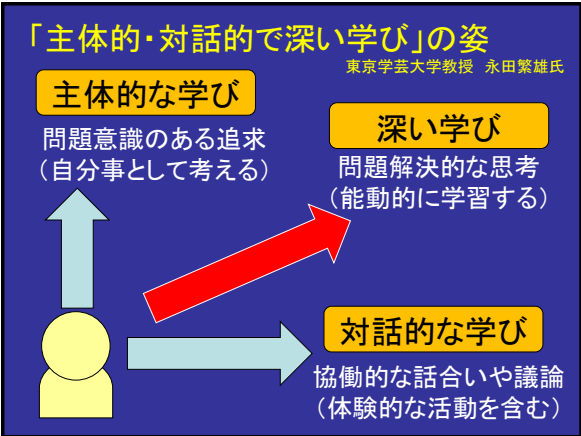
- 道徳科の授業を教師が占領しすぎている。
- 教師が発問し子どもが反応することを繰り返している。
- 一人一人の考えの違いをそのままにしている。
- 主人公の気持ちを問い続ける「浅い読解」から抜けられていない。

17

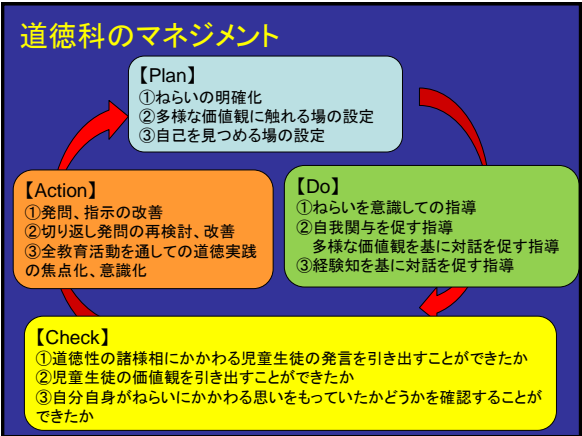
道徳科の在り方

- 子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく。
- 子どもの問題意識を大切にする。
- 登場人物の気持ちを考える。
→ 登場人物の「生き方」を考える。
- 多様な考えを並べる
→ 多様な考えを十分に生かし、とことん話合う。

18



19



20

質の高い多様な指導方法

- 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- 問題解決的な学習
- 道徳的行為に関する体験的な学習

21

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

- どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう。（理由根拠）
- 主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。（判断の理由）
- 自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。（自我関与）

22

道徳授業の工夫

道徳の物語を読んで登場人物の心情を追求し、
道徳的価値の自覚を深める。

例えば「高橋選手は練習中どんな気持ちだったか」×
↓
「どうして厳しい練習に耐えることができたのか」
「なぜそのように判断したのか」
「自分だったら同じように行動できるだろうか」
「どうすれば克己心を持てるか」

深めの発問

岐阜大学大学院教授 柳沼良太氏

23

問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

24

展開前段

① 道徳的問題の状況を分析

主体的な学び

- 「どこに関心(気になる所)がありますか？」
- 「ここでは何が問題になっていますか？」
- 「ここで困ったことは何ですか？」
- 「何と何で迷っていますか？」 **対立する価値**

もう一工夫

- 「問題の中によい所はありませんか？」
- 「問題の中に改善できる所はありませんか？」

岐阜大学大学院教授 柳沼良太氏

25

問題解決を促す発問

- 「主人公はどうしたらよい(よかった)だろう？」
- 「自分ならどうするだろう？」 **主体的な学び**
- 「人間としてどうすべきだろうか？」

もう一工夫！

ポジティブな自己像

- 「どうなってほしいか(どうなりたいか)」
- 「望ましい結果になるためには、どうすればよいか」
- 「理想の自分なら(尊敬する偉人なら)どうするか」
- 「よりよく生きるためには、どうしたらよいか」
- 「よりよい社会を築くためには、どうしたらよいか」

深い学び

26

多面的・多角的に考えるヒント(1)

- ① 解決策の**理由**を考える。 **原因・根拠**
「どうしてそう思いましたか？」
- ② **将来の結果**を考える。
「そうしたら、どうなると思いますか？」
「現実にはできるか？」「価値を実現できるか？」
- ③ **過去を振り返り、将来を見通す...**(汎用力)
「既に学んだ知識や経験を生かせないか？」
「将来、どうなってほしいか(どうなりたいか)？」

27

多面的・多角的に考えるヒント(2)

- ④ **可逆性の原理**
「自分がそうされてもよいか？」
 - ⑤ **普遍性の原理**
「いつ、どこで、誰にでもそうするか？」
 - ⑥ **互惠性の原理**
「それで皆が幸せになれるか？」
- ※ **自己中心的欲求から公共的福祉の実現へ**
 ※ **一方的な見方から多面的・多角的な見方へ**
 ※ **根拠・理由づけ・主張**

28

道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

- 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる。
- 役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れる。

29

「明確な指導観」をもつ

- 1 **価値観** **道徳的価値**
ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。
- 2 **児童観** **子どもの実態**
ねらいとする道徳的価値について、全教育活動で子どもたちにどのような指導をし、その結果としてのよさや課題を確認し、本時で学ばせたいことを明らかにする。
- 3 **教材観** **教材の活用**
授業者の意図、子どもの実態をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

30

ねらいと学習内容の焦点化

- 1 活動を書く。
「意地悪したときと親切にしたときの気持ちを比べることを通して、」
- 2 学習内容(知・情)を書く。
「意地悪する気持ちよさよりも、親切にする気持ちよさの方がずっと大きいことを感じ取り、」
- 3 ねらいとする内容項目を焦点化して書く。
「年下の友達に親切にしようと」
- 4 諸様相の一つを選んで書く。
「…とする態度を養う。」

31

道徳科に生かす指導方法の工夫

資料提示

子どもを資料と出わせ、想像や共感をかき立て、問題意識をもたせる。

教師による読み聞かせ 範読 判読
デジタル教科書 紙芝居 影絵 ペープサート
視聴覚機器の活用 実物や写真の提示
ゲストティーチャー ビデオ映像 など
選り抜かれた情報の提示が想像を膨らませる上で効果的な場合もある

32

道徳科に生かす指導方法の工夫

発問

子どもの心を動かし、多様な考えを引き出し、思考を深める。

子どもの意識の流れを予想しての発問

考える必然性や切実感のある発問

自由な思考を促す発問 など

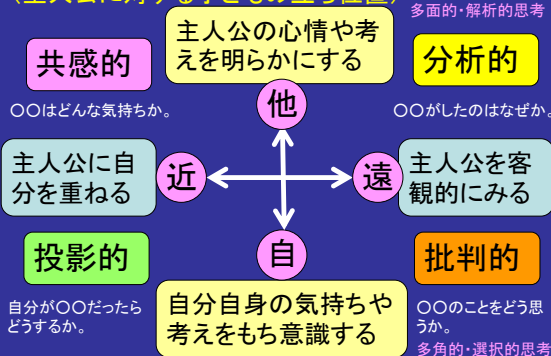
発問を構成する場合には、授業のねらいに関わる中心発問をまず考え、次に中心発問を生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにする。

33

発問を発想する軸

東京学芸大学教授 永田繁雄氏

(主人公に対する子どもの立ち位置)



34

発問の大きさ

小
↑
大

- 場面を問う(人物の気持ちや行為の理由)
- 人物を問う(主人公の生き方など)
- 教材を問う(教材の意味や持ち味など)
- 価値を問う(主題となる価値や内容など)

東京学芸大学教授 永田繁雄氏

35

対比・検討の発問(問い返しの発問)

- ① どの考えに最も納得できるか(納得度・受け入れ度)
- ② どの考えが最もよいか(善悪)
- ③ どの考えが最もすべきことか(当為)
- ④ どの考えが最も好きか(好悪)
- ⑤ どの考えが最も行いやすいか(実現可能性・見通し)
- ⑥ どれをしたことがあるか(経験の有無)
- ⑦ どの考えにも共通していることは何か(共通点)
- ⑧ 視点の転換

山口大学大学院 教育学研究科 坂本哲彦氏

36

道徳科に生かす指導方法の工夫

話し合い 子ども相互似たような考えを学び合い、深め合い切磋琢磨する。

意見を出し合う、まとめる、比較する。

座席配置 グループ ペア 討議形式

名札の活用 ICTの活用 など

児童生徒相互に響き合い、討論することができるように工夫する。

37

話し合いを活性させるための思考の視覚化

○ 道徳スケール



○ 心情円盤



○ 表情



○ 色

38

ICTの活用

- 教材提示の際、デジタル教科書の音読、画像や動画の提示に活用する。
- 導入時に児童の実態について、アンケートを取り、課題を明確にする。
- 中心発問や振り返りの際、自分の考えを入力し、全体で共有する。(立場により背景の色を変える。複数回聞く。)
- デジタル版道徳スケールを活用し、自分の立場を明確にして話し合う。
- 以前に書いたものと比べ、自分の変容を確かめる。

39

道徳科の評価

児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、**数値などによる評価は行わないものとする。**

平成29年7月 小学校学習指導要領

道徳性が養われたか否かは、
容易に判断できるものではない。

40

道徳教育における評価の意義

観点 教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童 **視点**

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、児童の成長につながる評価でなくてはならない

指導と評価の一体化

41

道徳科に関する評価

- ・ 観点別評価（道徳性の諸様相ごと）は妥当ではない。
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- ・ 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。

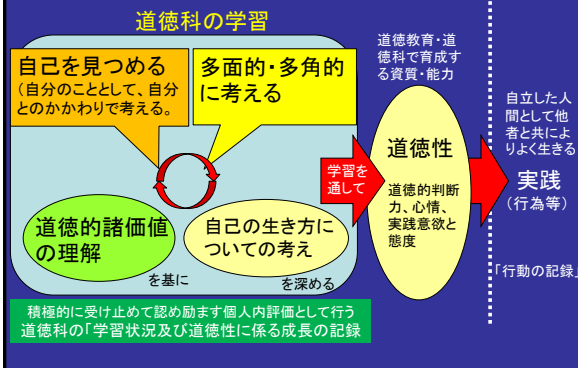
42

道徳科に関する評価

- ・ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視する。
- ・ 道徳科の評価は調査書には記載せず、入学選抜の可否判定に活用しない。
- ・ 発達障害等のある児童や海外から帰国した児童、日本語習得に困難のある児童等に対する配慮をする。

43

道徳科の学習活動と評価



44

評価の視点 (教師が見取る子どもの学習状況)

- 道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- 道徳的価値について、一つの見方ではなく、様々な角度から捉えて考えようとしている。
- 道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- 学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。

45

評価の具体的な進め方

- ワークシート、道徳ノート
- 座席表
- 板書をデジカメで撮影
- 他の教師による評価
- 学期末、年度末の振り返り

道徳科の授業そのものの充実・改善が最も大切

46

道徳科の授業で心掛けていること

- ・ 例外をつくらず、毎週必ず実施する。
- ・ 掲示物等の準備に時間をかけない。
- ・ 本時の内容項目について、学習指導要領解説をしっかりと読み、発達段階に応じて求められる内容を理解する。
- ・ めあてを明確にして授業を行う。
- ・ めあてについて話し合い、自分なりの答え(納得解)をもてるようにする。
- ・ 発表者の顔が見えるような机の配置にし、学び合いができるようにする。

47

道徳科の授業で心掛けていること

- ・ 楽しい授業を心掛ける。
自己評価カードの「今日の学習は楽しかったか。」の評価を重視する。
- ・ 変容が起こる授業構成を考える。すでに自分の中にあるもの、分かっていることを言っただけでは、学びがいのある授業とは言えない。
- ・ 発問を精選し、中心発問にしっかり時間をかける。
- ・ 子どもの発言をできるだけ繰り返さない。
- ・ 学習の振り返りの時間をしっかり確保する。
- ・ 自己評価カードに朱書きをし、個別に認め励ます評価をし、全体でも紹介する。

48